

6.コミュニティに関する施策

まちづくりの基本目標	「笑顔」輝くまち		分野	コミュニティ
基本方針	市民自治の確立		基本方針に関連するSDGsの目標	
施策番号	6-01-①	施策名	市民自治の確立のための活動支援と環境整備	

施策の概要
市民や地域主体の組織の活動を支援するとともに、まちづくりの多様な主体間の連携を図り、協働を促進します。また、学びやにぎわい、交流を促進できるよう、市民ニーズに応じた拠点の活用を進めます。

成果指標(単位)	市民主役のまちづくりが進んでいると思う市民の割合(%)				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値	(※基準値)	24.6	25.7	26.8	27.9
実績値	23.5	23.2			

成果指標実績に対するコメント
市民総合交流センターや地域まちづくりセンター等において特色のある事業展開がなされているため、そうした情報を広く届けられるよう市民への周知に力を入れる必要があると考えられる。

施策の達成度評価
地域まちづくり一括交付金、地域課題解決応援交付金などの適正な運用について、まちづくり協議会へ共有するとともに、まちづくり拠点の充実を図り、地域の主体性が促進できるよう、組織運営への助言および財政的な支援を行った。 また、市民総合交流センターを活用し、多様な主体の交流の場となる取組を行った。 さらに、公益財団法人草津市コミュニティ事業団が運営し、市民総合交流センターで実施するラウンドテーブルでは、市民活動団体やまちづくり協議会などの多様な主体との連携や交流の場となった。また、市の新規採用職員研修と合同で実施する機会を設け、市職員の協働意識の向上を図った。引き続き、市民活動団体だけに限らず、地縁団体等の多様な主体の参画を促す必要がある。
当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標は、「No.33 私の暮らしている地域では、地域活動(自治会・地域行事・防災活動等)への市民参加が盛んである」があり、偏差値が70を上回る結果であった。 各まちづくり協議会への支援や公益財団法人草津市コミュニティ事業団による交流の場の創出により、ウェルビーイングの観点からも、引き続き、各種支援や交流・参画を促進することで、市民や地域主体の組織の活動の活性化が図れるよう取組を進めていきたい。

評価に基づいた令和9年度の取組についての考え方
地域まちづくりセンターおよび市民総合交流センターを市民活動の拠点として活用し、テーマ型と地縁型の双方の市民活動が活性化することで市民主体のまちづくりとなるよう推進する。 また、まちづくり協議会を主体とする各小学校区の地域づくりを推進するため、地域まちづくり一括交付金および地域課題解決応援交付金を円滑に活用していただくよう支援する。
市民や地域主体の組織の活動を活性化することで、「No.34 暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる」「No.35 私は、町内(集落)の人が困っていたら手助けをする」といった指標にかかるウェルビーイング向上にも繋がると考えており、今後も地域課題に活用できる財政的支援や交流の場等を通じて、にぎわいの創出に向けて取組を進めていきたい。

■施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
まちづくり協議会推進事業	まちづくり協働課	○	地域まちづくり一括交付金、地域課題解決応援交付金など、地域の主体性が促進できるように支援を行ったため。
市民総合交流センター管理運営事業	まちづくり協働課	○	市民活動の交流拠点として、市民総合交流センターにおいてキラリエマツリやキラリエ秋まつり、キラリエクリスマスを実施し、多様な市民の交流を促進したため。
地域まちづくりセンター管理運営事業	まちづくり協働課	○	まちづくり拠点の充実やまちづくり協議会の組織運営への助言、財政的な支援を行い、地域活性化を図ることができたため。
協働のまちづくり条例推進事業	まちづくり協働課	○	草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会を2回開催し、協働のまちづくり推進計画の進捗を適切に評価できたため。

■施策評価シート6-01-①

■施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
地域まちづくりセンター整備事業	まちづくり協働課

成果達成度の表示について

◎ 期待を超える成果があった
○ 期待どおりの成果があった
△ 期待未満の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】									
主観指標項目		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
19	暮らしている地域の公共施設は使い勝手がよく便利である	実数	3.1	3.2					
		偏差値	55.2	57.9					
32	私は、同じ町内(集落)に住む人たちを信頼している	実数	3.4	3.4					
		偏差値	74.1	74.1					
33	私の暮らしている地域では、地域活動(自治会・地域行事・防災活動等)への市民参加が盛んである	実数	3.2	3.2					
		偏差値	73.5	74.7					
34	暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	実数	2.9	2.9					
		偏差値	60.7	61.3					
35	私は、町内(集落)の人が困っていたら手助けをする	実数	3.4	3.5					
		偏差値	78.3	80.0					
36	私は、この町内(集落)に対して愛着を持っている	実数	3.3	3.3					
		偏差値	66.6	68.6					
関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】								備考	
客観指標No. (令和7年度)			86						

■施策評価シート

6-02-①

まちづくりの基本目標	「笑顔」輝くまち		分野	コミュニティ
基本方針	基礎的コミュニティの活性化		基本方針に関連するSDGsの目標	
施策番号	6-02-①	施策名	基礎的コミュニティ活動の支援	

施策の概要

住民の実態やニーズの把握に努め、地域の諸課題を地域とともに向き合いながら、解決できるよう支援を行います。

成果指標(単位)	地域の組織やグループに加入している市民の割合(%)				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値	(※基準値)	33.5	34.2	35	35.7
実績値	32.7	29.9			

成果指標実績に対するコメント

高齢化や市民同士の交流の希薄化に加え、共働き世帯増加による担い手不足が要因になる等、町内会を取り巻く課題が多岐にわたっている中で、町内会加入率については、前年度比で1.6ポイント減少し、82.0%(令和8年3月末時点)になったが、町内会設立数は、前年度比で3町内会増加し、224町内会(令和8年3月末時点)となった。

施策の達成度評価

円滑な町内会運営の支援や担い手不足の解消への一助となるべく、町内会長全体説明会でまちづくり資料集で担い手確保の手法や町内会の工夫した取組を紹介することと併せて、随時、町内会長戸別訪問や町内会設立に向けた相談対応を行うなど、町内会活動の支援を行った。引き続き、町内会の活動促進に向けた支援を行う必要がある。

当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標は、偏差値が高い順に「No.35 私は、町内(集落)の人が困っていたら手助けをする」「No.33 私の暮らしている地域では、地域活動(自治会・地域行事・防災活動等)への市民参加が盛んである」「No.32 私は、同じ町内(集落)に住む人たちを信頼している」があり、いずれも偏差値が70を上回る結果であった。
本市は、全学区でまちづくり協議会が設立され、町内会と相互連携されており、ウェルビーイングの観点からも、引き続き、町内会の支援を行うことで、担い手不足の解消や活動の活性化が図れるよう取組を進めていきたい。

評価に基づいた令和9年度の取組についての考え方

町内会における運営体制や各種活動についての課題への対応に向けて、町内会長戸別訪問等を通じて、地域とともに住民のニーズや実態の把握に努め、町内会の支援を継続する。

町内会活動を活性化することで、「No.34 暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる」「No.35 私は、町内(集落)の人が困っていたら手助けをする」といった指標にかかるウェルビーイング向上にも繋がると考えており、今後も町内会長戸別訪問等を通じて、地域課題の対応に向けて取組を進めていきたい。

■施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
行政事務委託事務	まちづくり協働課	○	地域と行政をつなぐ橋渡しとして、行政事務の一部を委嘱し、市行政を円滑に運営することが出来たため。
コミュニティハウス整備補助事業	まちづくり協働課	○	集会所整備が進むことで、基礎的コミュニティの活動の活性化を促したため。

■施策評価シート 6-02-①

■施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
コミュニティ活動初期備品整備補助事業	まちづくり協働課
掲示板設置補助事業	まちづくり協働課
自治会活動保険加入補助事業	まちづくり協働課

成果達成度の表示について

- ◎ 期待を超える成果があった
- 期待どおりの成果があった
- △ 期待未達の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】									
主観指標項目		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
32	私は、同じ町内(集落)に住む人たちを信頼している	実数	3.4	3.4					
		偏差値	74.1	74.1					
33	私の暮らしている地域では、地域活動(自治会・地域行事・防災活動等)への市民参加が盛んである	実数	3.2	3.2					
		偏差値	73.5	74.7					
34	暮らしている地域には、困ったときに相談できる人が身近にいる	実数	2.9	2.9					
		偏差値	60.7	61.3					
35	私は、町内(集落)の人が困っていたら手助けをする	実数	3.4	3.5					
		偏差値	78.3	80.0					
36	私は、この町内(集落)に対して愛着を持っている	実数	3.3	3.3					
		偏差値	66.6	68.6					
関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】									
客観指標No. (令和7年度)			86						備考

まちづくりの基本目標	「笑顔」輝くまち		分野	コミュニティ
基本方針	市民公益活動の促進		基本方針に関連するSDGsの目標	
施策番号	6-03-①	施策名	市民公益活動の支援	

施策の概要
ボランティアや各種団体等の公益活動を支援するため、中間支援組織である(公財)草津市コミュニティ事業団等と連携を図り、活動を支援する補助金制度の活用や、まちづくり講座、交流イベントを積極的に実施します。

成果指標(単位)	市および中間支援組織が開催する地域人材育成講座の延べ受講者数(人)				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値	(※基準値)	670	680	690	700
実績値	666	431			

成果指標実績に対するコメント
令和6年度まで社会福祉協議会が実施されていた福祉教養大学・大学院等の講座が、令和7年度から複数の関連講座と集約されたこと、また地域人材育成講座は年度により受講者数が前後することから延べ受講者数は235名減少した結果となった。地域人材育成講座はニーズに沿って効果的に実施いただいているものであり、地域人材の育成を継続的に実施できているので、今後は広く市民への周知に力を入れる必要がある。

施策の達成度評価
市民公益活動の支援に関しては目標値を下回ったものの、成果指標である地域人材育成講座の開催以外にも、ラウンドテーブルや市民公益活動団体同士の交流を深める事業や、市民公益活動団体等への活動助成等も行っており一定の成果を上げている。引き続き学区や市民公益活動団体および市民への周知を図りながら、受講者のニーズに応じて講座内容の充実を図っていく必要がある。
当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標は、「No.33 私の暮らしている地域では、地域活動(自治会・地域行事・防災活動等)への市民参加が盛んである」があり、偏差値が70を上回る結果であった。 本市は、草津市コミュニティ事業団や社会福祉協議会が中間支援組織として地域のまちづくり活動や市民活動等の活動支援を行っていただいております。今後も中間支援組織と連携し、市民公益活動等のさらなる活性化に取り組んでいきたい。

評価に基づいた令和9年度の実績についての考え方
講座の開催にあたっては、引き続き社会情勢や市民のニーズに応じたテーマ設定を行い、多くの方に参加いただきやすい内容となるよう工夫するとともに、互いの活動が繋がるような仕掛けづくりを行っていく。また、キラエ草津での実施事業については、多様な世代や価値観を持つ市民それぞれの関わりしろを増やせるよう工夫していく。 また、協同労働については、引き続き、まちづくり協議会等と連携しながら普及・啓発に努めるとともに、個別相談会を行いながら、協同労働団体等の立ち上げを支援していく。
市民公益活動の支援は、「No.33 私の暮らしている地域では、地域活動(自治会・地域行事・防災活動等)への市民参加が盛んである」というウェルビーイングの向上の一端を担うことから、引き続き地域人材育成講座の実施や、まちの担い手同士の交流、活動助成などを行っていく。

■施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
(公財)草津市コミュニティ事業団運営費補助事業	まちづくり協働課	○	多様な世代の市民にアプローチした内容の講座を展開することで、団体同士の交流を促進させたため。

■施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課
市民活動推進事業	まちづくり協働課

成果達成度の表示について

◎ 期待を超える成果があった
○ 期待どおりの成果があった
△ 期待未満の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】							
主観指標項目		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
33	私の暮らしている地域では、地域活動(自治会・地域行事・防災活動等)への市民参加が盛んである	実数	3.2	3.2			
		偏差値	73.5	74.7			

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】									備考
客観指標No. (令和7年度)		89							

■ 施策評価シート 6-04-①

まちづくりの基本目標	「笑顔」輝くまち		分野	コミュニティ
基本方針	多文化共生社会の構築		基本方針に関連するSDGsの目標	 
施策番号	6-04-①	施策名	多文化共生の推進	

施策の概要
国籍などの違いにかかわらず、共に支え合い、誰もが安心して暮らせる多文化共生の地域づくりを進めるため、草津市国際交流協会と連携し、外国人住民のコミュニケーションや生活に関する分野の支援を行うとともに、日本人住民の国際理解の推進に努めます。

成果指標(単位)	「多文化共生社会の構築」に満足している市民の割合(%)				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
目標値	(※基準値)	15.5	16.2	16.9	17.6
実績値	14.8	14.5			

成果指標実績に対するコメント
市民意識調査の結果、多文化共生社会の構築に満足している市民の割合は前年度に比べ0.3ポイント減少し、目標値を達成することができなかった。外国人住民が増加する中、草津市多文化共生推進プランに基づく市民向けのやさしい日本語研修会や、市内の小学校でのやさしい日本語出前授業等の実施、市ホームページの多文化共生に関するページの充実を図ったが、各取組について市民への更なる周知が必要であったと考えられる。

施策の達成度評価
やさしい日本語研修会を市職員向けと市民向けに各1回開催し、外国人住民とのコミュニケーション支援につなげた。また、市内の小学校に通う児童を対象に、やさしい日本語出前授業を行うなど、多文化共生への理解の推進を図った。
当該施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標は、「No.37 この町内(集落)には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある」であり、偏差値は55を上回る結果であった。 本市では、外国人住民の数が増加傾向にある中、多文化共生のまちづくりを進めており、引き続き、国籍等の違いにかかわらず、全ての人が活躍できる地域社会となるよう、令和8年3月に策定した第2次草津市多文化共生推進プランに基づいて取組を進めていきたい。

評価に基づいた令和9年度の取組についての考え方
第2次草津市多文化共生推進プランに基づき、引き続き、草津市国際交流協会と連携しながら各種事業を推進する。また、事業推進の際は、広く市民に周知できるよう広報活動に努め、多文化共生に対する市民の意識向上や、多文化共生の地域づくりに繋げる。
多文化共生社会の構築は、「No.37 この町内(集落)には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある」という指標にかかるウェルビーイングの向上にも資する取組であると考えており、引き続き、多文化共生への理解や外国人住民とのコミュニケーション支援等の取組を行っていく。

■ 施策に含まれる主要事業一覧

主要事業	担当課	成果達成度 (主要事業のみ)	達成度評価理由
国際交流推進事業	まちづくり協働課	○	草津市国際交流協会と連携し、草津市多文化共生推進プランに掲げる各種取組を実施したため。

■ 施策に含まれるその他の事業一覧

事務事業	担当課

成果達成度の表示について

◎ 期待を超える成果があった
○ 期待どおりの成果があった
△ 期待未達の成果であった

※施策に含まれる事務事業のうち、主要事業についてのみ記載しています。

■施策に関連する地域幸福度(Well-Being)指標

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【主観指標】							
主観指標項目		区分	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
37	この町内(集落)には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	実数	2.9	2.9			
		偏差値	57.7	58.4			

関連する地域幸福度(Well-Being)指標【客観指標】									備考
客観指標No. (令和7年度)		95							